

新温泉の観光や 文化活用を模索

但馬牧場公園で
高校生ら交流会

新温泉町が誇る観光や文化資源の新たな有効活用策を模索する交流会が15日、同町丹土の県立但馬牧場公園であり、参加した町内の高校生らが「食べ物」「体験」などをキーワードにさまざまなアイデアを出し合った。

本年度から具体的な実践に入る「町文化財保存計画」の実行性を高めるための取り組み。町教委が企画し、浜坂高の生徒や鳥取大の留学生など計16人が参加した。

アイデアを出し合う参加者ら。15日、新温泉町丹土の県立但馬牧場公園



午前中は町内の浜坂地区や湯村温泉の荒湯などを巡り、観光資源を実感。同公園には午後から訪れ、参加者らは二つのグループに分かれて、町を象徴する「食べ物」と「体験」を洗い出

した。

どれも魅力ある資源であり、それぞれを組み合わせて新たなイベント案を検討。滝を見ながら日本酒を楽しむ企画や、魚釣りをして釣った魚をその場で食べるイベントなど、自然環境を生かした多彩なプランが提案された。

町生涯教育課文化財室の中井健太主査は「これからも継続して町のファンを増やしていく、住民と一体でまちづくりを考えていきたい」と話していた。

（安部航太）